

道徳の教科化を読み解く：
特別の教科「道徳」の検定教科書から見えてくるもの

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三田村, 彰 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/10877

道徳の教科化を読み解く

特別の教科「道徳」の検定教科書から見てくるもの

三田村 彰

I. 道徳の教科化

私が、新採用教員として4年間小学校に勤務した時、学級担任として道徳の時間に悩んでいた思い出がある。読み物教材の心情理解を中心とする指導は、国語の授業と同じではないかとの疑問、指導主事の先生からは道徳的实践力を養う指導がなされていないとの指摘など、悪戦苦闘の連続であった。

このような道徳教育の課題は、今回の特別の教科「道徳」の指導要領解説でもきびしく指摘されている。改訂の経緯のなかで、「歴史的な経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科等に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること」など、現在も多くの課題が改善されていないことを指摘している。

昭和33年に、小・中学校において、道徳の時間が設けられ、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、生徒に道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深めさせ、道徳的实践力を育成するものとされてきたが、道徳教育が期待される役割を十分に果たしてこなかったのはなぜだろうか。

この問題について、平成23年10月の「大津市のいじめ自殺」をきっかけとして、深刻ないじめの本質的な解決に向けた議論の中で検討が始められた。

平成25年2月の教育再生実行会議第一次提言では、「現在行われている道徳教育は、指導内容や指導方法に関し、学校や教員によって充実度に差があり、所期の目的が十

分に果たされていない」と指摘している。

平成25年12月の道徳教育の在り方に関する懇談会報告書では、「道徳の時間が年間35時間単位時間確実に確保される」という量的確保と、「子供たちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深める」という質的転換に分けて述べられている。

平成26年10月に中央教育審議会は、「道徳に係る教育課程の改善等について」を答申し、道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付け、検定教科書を導入することなどを提言した。

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえて、文部科学省は平成27年3月に学習指導要領の一部を改正し、「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」として新たに位置付けた。

道徳は、学級担任が担当することが望ましいと考えられること、数値などによる評価はなじまないと考えられることなど、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という新たな枠組みを設け、位置づけたことが説明されている。

II. 道徳の教科書検定

1. 平成28年度の小学校道徳科の教科書検定から次のような検定基準が新設されている。

① 学習指導要領において示されている題材・活動等について教科書上対応することを求める規定

内容の取扱いに示す題材(生命の尊厳、社会参画(中学校)、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等現代的な課題)は全て教材として取り上げることを求めている。

② 学習指導要領における教材の配慮事項を踏まえた規定

「内容の取扱い」に照らして、適切な教材を取れ上げていること、教材の取り上げ方として不適切なところはないこと、特に多様な見方や考え方ができる事項を取り上げる場合は、その取り上げ方について、特定の見方や考え方に偏った取扱いはされておらず公正であるとともに、児童生徒の心身の発達段階に即し、多面的、多角的に考えられるように適切な配慮がされていることを求めている。

③ 道徳科の内容項目との関係の明示を求める規定である。

図書の主な記述と、道徳科の内容項目との関係を明示し、かつその関係は学習指導要領に照らして適切であることを求めている。

2. 道徳科の教科書について留意すべき点を、次のように例示している。

① 国際理解や国際協調の観点から、多面的・多角的に考えることができる教材であること。

② 民間発行の副読本、教育委員会等作成の地域教材、「私たちの道徳」等の文部科学省（文部省）作成の教材等の様々な教材のよさを生かすこと。

③ 家庭や地域社会と連携した道徳教育にも資するものとなること。

3. 道徳科の教科書検定体制の充実方策として、次のような方策を講じている。

① 学校における道徳教育に精通した教員や指導主事等を専門委員として任命し、例えば一冊の教科書につき3名程度の者が調査に当たることができるようにすること。

② 図書の内容に応じ、道徳科以外の教科に関して専門的知見を有する者（道徳科以外の教科を担当する部会の委員・臨時委員・専門委員その他の学識経験者等）の協力を得ることができるようにすること。

Ⅲ. 道徳の検定教科書の特徴

小学校の道徳の検定教科書は、8社が作成している。文部科学省に提出された各教科書の編修趣意書の基本方針に使われているキーワードにより比較したものである。

① 光文書院「小学道徳ゆたかな心6年」

- ・見通しをもった自主的・主体的な学習のために
- ・学習意欲を高めるための工夫

- ・多様な教材の開発
- ・指導内容の重点化
- ・体験的な学習についての配慮
- ・問題解決的な学習の工夫
- ・家庭や地域との連携
- ・自己評価の活用

② 光村図書「道徳6 きみがいちばんひかるとき」

- ・考えたくなる教科書
- ・語り合いたくなる教科書
- ・動きだしたくなる教科書

③ 教育出版「小学道徳6 はばたこう明日へ」

- ・次の時代を切り開いていく資質・能力を身に付ける教科書
- ・考え、議論する姿勢を身に付ける教科書

④ 廣済堂あかつき「みんなで考え、話し合う 小学生の道徳6」「自分を見つめ、考える 道徳ノート6」

- ・みんなで考え、話し合う
- ・自分を見つめ、考える
- ・豊かな自己の形成

⑤ 日本文教出版「小学道徳 生きる力6」「小学道徳 生きる力6 道徳ノート」

- ・みずから考えたくなる！
- ・授業に躍動感を！
- ・社会に根差した道徳教育を！

⑥ 学校図書「かがやけみらい小学校道徳6年読みもの」「かがやけみらい小学校道徳6年活動」

- ・自ら感じ、自ら考える教科書
- ・課題意識をもち、アクティブに学ぶ
- ・対話を通じて、思慮深さを培う
- ・生きる喜び、強い心を育てる
- ・共生・共助の精神を磨く

⑦ 東京書籍「新しい道徳6」

- ・人生や生活に生きて働く道徳性を育成するために
- ・よりよく生きようとする心を育てる教科書
- ・確かな道徳性を育てる教科書
- ・主体的に学習に取り組む態度を育てる教科書

⑧ 学研教育みらい「みんなの道徳6年」

- ・「プラス思考」と「未来志向」を培う道徳教科書
- ・自ら課題を見つける「気付き」を育む
- ・多様な学びの展開で「考える道徳」「議論する道徳」
- ・最重点テーマは「いのちの教育」
- ・児童の学びやすさに配慮した工夫

2.小学6年または5年の道徳教科書に掲載されている教材に「手品師」という読み物がある。

手品師

あるところに、うではいいのですが、あまり売れない手品師がいました。もちろん、くらしむきは楽ではなく、その日のパンを買うのも、やっとなというありさまでした。「大きな劇場で、はなやかに手品をやりたいなあ。」いつも、そう思うのですが、今のかれにとっては、それは、ゆめでしかありません。それでも手品師は、いつかは大劇場のステージに立てる日の来るのを願って、うでをみがいていました。

ある日のこと、手品師が町を歩いていますと、小さな男の子が、しょんぼりと道にしゃがみこんでいるのに出会いました。

「どうしたんだい。」

手品師は、思わず声をかけました。男の子は、さびしそうな顔で、おとうさんが死んだあと、おかあさんが、働きに出て、ずっと帰ってこないのだと答えました。

「そうかい。それはかわいそうに。それじゃおじさんが、おもしろいものを見せてあげよう。だから、元気を出すんだよ。」

と言って、手品師は、ぼうしの中から色とりどりの美しい花を取り出したり、さらに、ハンカチの中から白いハトを飛び立たせたりしました。男の子の顔は、明るさを取りもどし、すっかり元気になりました。

「おじさん、あしたも来てくれる？」

男の子は、大きな目を輝かせて言いました。

「ああ、来るともさ。」

手品師が答えました。

「きっとだね。きっと、来てくれるね。」

「きっとさ。きっと来るよ。」

どうせ、ひまなからだ、あしたも来てやろう。手品師はそんな気持ちでした。

その日の夜、少しはなれた町に住む仲のよい友人から、手品師に電話がかかってきました。

「おい、いい話があるんだ。今夜すぐ、そっちをたつて、ぼくの家に来い。」

「いったい、急に、どうしたと言うんだ。」

「どうしたもこうしたもない。大劇場に出られるチャンスだぞ。」

「えっ、大劇場に？」

「そうとも、二度とないチャンスだ。これをのがしたら、もうチャンスは来ないかもしれないぞ。」

「もうすこし、くわしく話してくれないか。」

友人の話によると、今、ひょうばんのマジック・ショウに出演している手品師が急病でたおれ、手術をしなければならなくなったため、その人のかわりをさがしているのだというのです。

「そこで、ぼくは、きみをすいせんしたというわけさ。」

「あおう、一日のぼすわけにはいかないのかい。」

「それはだめだ。手術は今夜なんだ。明日のステージにあなをあけるわけにはいかない。」

「そうか……………」

手品師の頭の中では、大劇場のはなやかなステージに、スポットライトを浴びて立つ自分のすがたと、さっき会った男の子の顔が、かわるがわる、うかんで消え、消えてはうかんでいました。

(このチャンスをのがしたら、もう二度と大劇場のステージには立てないかもしれない。しかし、あしたは、あの男の子が、ぼくを待っている。)

手品師はまよいに、まよっていました。

「いいね、そっちを今夜たてば、明日の朝には、こっちに着く。待ってるよ。」

友人は、もう、すっかり決めこんでいるようです。手品師は、受話器を持ちかえると、きっぱりと言いました。

「せっかくだけど、あしたは行けない。」

「えっ、どうしてだ。きみがずっと待ち望んでいた大劇場に出られるというのだ。これをきっかけに、きみの力が認められれば、手品師として、売れっ子になれるんだぞ。」

「ぼくには、あした約束したことがあるんだ。」

「そんなに、たいせつな約束なのか。」

「そうだ。ぼくにとっては、たいせつな約束なんだ。せっかくの、きみの友情に対して、すまないと思うが……………」

「きみがそんなに言うなら、きっとたいせつな約束なんだろう。じゃ、残念だが……………。また、会おう。」

よく日、小さな町のかたすみで、たったひとりのお客さまを前にして、あまり売れない手品師が、次々とすばらしい手品を演じていました。 江橋照雄 作

この教材に付けられている発問を、教科書別に比較したものである。

① 光文書院「小学道徳 ゆたかな心 5年」

- ・男の子に、「きっと来るよ。」と答えたとき、手品師は、どのようなことを思っていたのかな。
- ・「友人」から電話をもらって、手品師がなやんだのは、どんなことだったのかな。
- ・手品師は、なぜ大劇場に出られるチャンスをことわっ

たのかな。

- ・手品師は、どのような思いで、男の子の前で手品をしているのでしょうか。
 - ・手品師の生き方をどう思いますか。また、あなたはどのような生き方がしたいですか。
 - ・「誠実に生きる」とは、どういうことだと思いますか。みんなで話し合ってみましょう。
- ② 光村図書「道徳6 きみがいちばんひかるとき」
- ・友人の「いい話」を聞きながら、手品師は、どんなことを思っていたのでしょうか。
 - ・手品師は、どんな思いから、たった一人のお客様の前で手品をするを選んだのでしょうか。
 - ・「誠実に生きる」とは、どんな生き方でしょう。
- ③ 教育出版「小学道徳6 はばたこう明日へ」
- ・友人からステージへの出演の電話を受けたとき手品師はどんなことを考えていたのでしょうか。
 - ・手品師はどうして男の子のところへいったのでしょうか。話し合ってみましょう。
 - ・手品師のすばらしいところはどこでしょう。みんなの意見を聞いてみましょう。
 - ・誠実に生きるとは、どのようなことでしょうか。自分の考えをまとめて発表しましょう。
- ④ 廣済堂あかつき「みんなで考え、話し合う 小学生の道徳6」「自分を見つめ、考える 道徳ノート6」
- ・手品師は、どのようなことを考えて迷っていたのでしょうか。
 - ・手品師はどのように考えて、友人のさそいをきっぱりと断ったのでしょうか。
 - ・「ぼくにとっては」という手品師の言葉の意味を、生き方として考えてみましょう。
 - ・人に対して誠実に応えることができたとき、どんな気持ちになりますか。
- ⑤ 日本文教出版「小学道徳生きる力6」「小学道徳生きる力6 道徳ノート」
- ・迷いに迷っている手品師の気持ちについて考えましょう。二人一組になって、大劇場に出たい手品師と、男の子との約束を守る手品師の気持ちで会話してみましょう。
 - ・チャンスを見送って男の子との約束を果たそうと決心する手品師。その決め手となった思いはなんでしょう。
- ⑥ 学校図書「かがやけみらい小学校道徳5年読みもの」「かがやけみらい小学校道徳5年活動」
- ・「手品師」になったつもりで、「男の子」と「友人」の間に立って二人と話し、手品師の心の様子を考えまし

よう。

- ・友人のさそいを断り、男の子の前で手品を演じている時の手品師の気持ちは、どんなだったのでしょうか。
 - ・自分自身にせいじつに行動して、気持ちがよいと思ったことについて話し合ってみましょう。
- ⑦ 東京書籍「新しい道徳6」
- ・たった一人のお客さまの前で、手品を演じているときの手品師の気持ちを書いて、話し合ってみましょう。
 - ・あなたは、そうしたほうがよいと思ったことを行動に移せたことはありますか。
- ⑧ 学研教育みらい「みんなの道徳5年」
- ・友人のさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えたのでしょうか。
 - ・自分が手品師だったら、どんなことを大切にしますか。

すべての教科書に「考えてみましょう」や「学び方の手順」などの見出しをつけて、中心となる発問が記載されている。この発問を分析することにより、各教科書が学習指導要領をどのように捉えているかが明らかになってくる。

IV. 道徳の教科書採択

平成30年度から平成31年度までの京都市立小学校において使用する「特別の教科 道徳」教科書採択について調査したものである。

1. 採択の経過

平成29年度

5月11日（木）教育委員会において基本方針及び選定の観点について議決

5月15日（月）第1回京都市地区小学校教科書選定委員会

- ・教員及び指導主事30名、学識経験者3名、保護者代表3名に委員を委嘱

- ・教育長から教科書の選定について諮問

- ・選定委員会内に設置された各調査研究部会が、本市立小学校に最も適した教科書を選定するため、資料の収集・作成などの調査・研究を開始

6月1日（木）教育委員会において採択事務の進捗状況について報告・質疑

6月2日（金）～7月5日（水）教科書展示会開催

【法定】京都市総合教育センター、右京中央図書館 計2ヶ所

【独自】3中央図書館（中央、伏見、醍醐）、地域図書館等 計9ヶ所

(※法定期間：6月16日(金)から14日間)

6月19日(月) 第2回京都市地区小学校教科書選定委員会

・各調査研究部会による進捗状況の中間報告・質疑

2. 採択の基本方針

- ① 学習指導要領の趣旨に則し、「特別の教科 道徳」の目的の達成に適したものであること。
- ② 京都市の学校教育の基本方針、教育課程の内容、構成、授業時数、編成・実施上の配慮事項等を示した「京都市立小学校教育課程移行措置要領 道徳」に則したものであること。
- ③ 京都市が目指す子ども像である「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」の育成に資するものであること。
- ④ 一人一人の子どもの道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に向け、学習活動の充実に寄与するものであること。
- ⑤ 基本的人権の尊重の視点に立ち、人権文化の担い手を育成するとともに、子どもの道徳性を養うものであること。

3. 選定の観点

- ① 道徳科の目標を達成するために、児童の発達段階に即し、学習のねらい(目標)や振り返り活動等が適切に設定されるなど、児童の道徳的な成長を促し、実感できるよう工夫・配慮されていること。
- ② 言語活動や問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、児童が主体的・対話的に道徳的価値について、多面的・多角的に学べるよう多様な指導方法が工夫され、「考え・議論する道徳」の学習活動が進められるよう工夫・配慮されていること。内容項目が網羅的に取り扱われており、教材の系統性・発展性が工夫されていること。また、他教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動とともに、環境教育、情報教育、生き方探究(キャリア)教育等の教育課題との関連に加え、他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- ③ 教材に応じて、読み物資料に加え、多様で適切な挿絵や写真等が豊富に用いられるとともに、特定の見方や考え方に偏ることなく、多様な見方や考え方ができるよう工夫・配慮されていること。
- ④ 生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、

児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするよう工夫・配慮されていること。

基本的人権の尊重の視点からの内容が積極的に取り上げられ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう工夫・配慮されていること。

⑤ 表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

4. 教科書展示会場実施状況

6月2日(金)～7月5日(水)

京都市総合教育センター 72人 30件

右京中央図書館 57人 24件

6月2日(金)～6月9日(金)

中央図書館 5人 2件

京都市生涯学習総合センター山科 8人 4件

左京区図書館 18人 15件

6月14日(水)～6月21日(水)

伏見中央図書館 9人 6件

東山図書館 3人 1件

吉祥院図書館 5人 4件

6月25日(日)～7月2日(日)

醍醐中央図書館 10人 11件

北図書館 20人 15件

洛西図書館 18人 14件

合計 225人 126件

【参考】

22年度小学校教科書採択 来場136人 意見 1件
(6/4～7/7)

26年度小学校教科書採択 来場108人 意見 57件
(5/30～7/2)

過去の小学校教科書採択時と比較して、今回の道徳教科書の採択については、来場者数は約2倍、意見書を提出した人も非常に多いことから、関心の高さがうかがわれる。

意見書の分類(1つの意見書に2つ以上の分類あり)に従い、代表的な意見を引用したものである。

① 教科化への不安や疑問等 45件

・子どもが今年1年生なので、来年習うことになるかもしれない2年生の道徳の教科書を見せていただきました。道徳が教科化されるということで不安があります。廣済堂あかつき出版の冒頭“どうとくの時間はこんな時間”の中で、「かんじること、考えることは人それぞれちがいがあります。いろいろ答えがあってよいのです。どうとくの時間は一つの正しい答えやよい答えをさがす時間ではありません」との記述があり、こういった内容が全ての教科書にあればよいのと思います。ただ、この出版社の付属のノートでは、項目ごとに顔のマークで自己評価する欄があり、また、目標の記述が押し付けになっていないか疑問です。どの教科書もですが、文末の設問の設定のしかたで、ある程度こたえが縛られていると感じます。特に気になるのは、教育出版の“しりょうのページ”“みにつけよう礼儀マナー”です。冒頭の「どうとくの時間がはじまるよ」では、「みなさんが大切にしている気持ちや考えをはっぴょうし、友だちのかんがえを聞いたり…」とあるのに、何の根拠もなく唐突に公共マナー（とされるもの）や国旗・国歌に対する態度が規定されていて、非常に強い違和感を感じます。道徳のねらいが教科書にある言葉を借りれば「よりよく生きるため」「もっとよい自分になるため」という、ある意味主観的な個人の価値観に関わってくるようなものであるだけに、より一層慎重に、科学的な根拠や世界的な人権意識などに基づいた内容を目指していただきたいと思います。

② 教科化への期待等 18件

・道徳が教科化されるということで、教科書を見にきました。心（道徳）のノートをどのように活用していくのかは考える必要があると思いました。道徳の指導にあたってどのような指導が教師にされるのでしょうか。各教科もそうですが、教師の力量により大きなちがいをうむのではないのでしょうか。以前に、父母への感謝のことばを書くということですら、ギャクタイを受けている子どもにとってはつらい作業になるときました。どのようにかいたらい評価が得られるというのではなく、本当にいい結果をうめるのかを考えた指導が必要です。日常的に子どもをよく見ていないと感想文や道徳のノートに書かれたものだけをあてにしていけないと思います。スクールソーシャルワーカーの配置などでいいねにみてほしいと思っています。

③ 特定の教科書、教材への意見 86件

・小学校道徳教科書6年生用を中心に、意見を書きます。
 (1) 教育出版6年「祖国にオリンピックを」(p58～p62)すでに16年前に亡くなった人物と2020年オリンピックを無理に結びつけている。偏向している。日本文教出版「東京オリンピック、国旗にこめられた思い」p42も同様。(2)「野口英世」p102と母の言葉に「日の丸」は関係しないのにp106の絵は強調しすぎ(教育出版)学研「チョモランマ」p22の写真も同傾向。(3) 教育出版「新渡戸稲造」p88「武士道」が日本人の心を表現している(判読不能)のは偏った見方で憲法の本質、教基法「人格の(判読不能)成に反する。学校図書「人間をつくる道—剣道—も同様の傾向がある。(4) 学校図書「小石丸がつなぐ千年の糸」p44正倉院の宝物は数多いその中で皇室とつながりのある話だけとり出すのは偏っている。皇后の行為は国事行事でも公的行事でもないものだ。(5) 光文書院「これが日本」p106に8つあげられているが何の根拠であげているのか?現代の日本にはもっと良さもあるし、矛盾に満ちた「子どもの貧困」や「格差」の問題も深刻。良い面、悪い面あげるべき一面的。(6) 子どもの書いた文としているが、どうみても表現が大人の作であり、ウソを与えてはならない。学研「その思いを受けついで」p40「こみあげる悲しさに声を上げてない」「言い知れぬ不安がおそった」など。(7) 人間の自由を「わがまま」「責任」すり替える傾向がある。あかつき出版「自由だからこそ」p36日本文教出版「ほんとうのことだけど」p14東京出版「修学旅行の夜」p76憲法の本質とちがう「自由」「責任」。(8) 評価の数値化につながる危険性 心の矢印光文書院巻末。(9) 日本文教「税金ってだれのため?」p151政府の納税の宣伝。子どもの道徳と関係ない。(10)「いじめ」や「友達関係あげているが、大人の文で本当の子ども声、文でない。光村p124。☆いい教材も少ないがある。光村p15「世界人権宣言33条」、東京書籍p29「白神山地、自然保護」p29インターネット上の権利、著作権、肖像権、プライバシー光村157。教育出版「広島原爆の子の像」p184 東京書籍「東京大空襲の中で」p150もいい教材だ。全体に現行の「私たちの道徳」文科省副読本にしばられている。教育出版の教科書は「オリンピック」「日の丸」「武士道」等強調され過ぎ。採用しない方がいい。「伝統・文化」にこじつけて偏狭な愛国心をあおっている。

④ 指導方法や学習方法への意見 20件

・主に6年の教科書をみました。他の学年も含めて A 自分自身のこと B人と関りについて C集団や社会との関り D生命や自然「崇高」（あえてひつようかなものとの関りにそってさまざまな教材をとりあげており、共通する教材についてもとりあげる視点がちがうと変わってくるのを感じた。道徳とはという中に考え方はさまざま、正しい答えやよい答えをみつける時間ではなく、自分を見つめるためのものと明記しているが、かなり子どもたちをいわゆる道徳的な考え方に導こうとする傾向も強いと思った。単元のさいごに子どものふきだしの声として例をあげているのはよくないのでは…自分たちで自由にまちがっても思いをだしあうことができるふんいきが大切と思う。心の中のことをさらけださせ、評価する教科化そのものが問題だと思う。また少なくない教科書で「演じてみる」「動いてみる」として実際に役割を与えてやらせてみるというのは非常に問題ではないかと感じた。世界の流れ、子どもの権利条約や宗教をこえてつながるヒューマニティ、環境問題などにふれている光村、廣済堂あかつきの教材は大事なことにふれていると思った。また現代の子どもに対してインターネットのこと、いじめのこともしっかりと書くことは大切と思った。ほんとうの自由とはについて子どもたちがしっかりと考え話しあえるようになってほしい（わがままではない）。税金の使い方についてふれているのはとても大切なことと思っただが、納税の義務ばかり強調して使われ方についても目をむけていく方向性も大切と思った。

⑤ その他 45件

・道徳の教科書にノートが付属しているのが何社もありましたが、ノートに書くことに（文字をかく、作文することに）時間がかかる児童にとっては負担が大きいと思います。他の人と意見をかわし自分の変化をうながすことと文字にしてのこすことは別で、ノートにかかせるのは評価するためかと思います。胸にあふれる感動や心ゆさぶられて自分の考えが変化していく途中の子の気持ちを言葉にするのは大人にとってもむずかしいことです。ノートに字をうめるための活動を評価のためにさせるなら道徳のねらいとは別の方にはずれていくでしょう。というわけで、ノート付きの教科書はふさわしくないと考えます。

5.教科書選定委員会の流れ

第1回「京都市小学校教科書選定委員会」会議概要

① 日時

平成29年5月15日（月）18時30分から19時50分まで

② 会場

京都市総合教育センター 永松記念ホール

③ 出席者

選定委員35名 教育委員会事務局10名

④ 議事

教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後、調査研究部会（低学年部会、中学年部会及び高学年部会）で協議が行われた。

教育長から平成30年度から平成31年度まで京都市立小学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書の選定についての諮問を行った。

首席指導主事から教科書選定の進行、公正確保等についての説明を行った。委員の互選により委員長に藤田弘明委員が、副委員長に浅井和行委員が選出された。

調査研究部会全体会で、業務内容説明及び部会長、副部会長の選出が行われた後、各部会において、調査研究における「選定の視点」や調査研究方法、今後の部会開催日程について協議が行われた。

第2回「京都市小学校教科書選定委員会」会議概要

① 日時

平成29年6月19日（月）18時30分から20時20分まで

② 会場

京都市総合教育センター 1階 第2研修室

③ 出席者

選定委員学識者及び保護者代表6名の委員を含め35名

④ 議事

部会ごとに部会長、副部会長及び指導主事から、現時点での調査研究の状況についての報告を行った後、学識者及び保護者の委員からの意見を踏まえ、協議した。

<主な意見>

- ・1年生の教科書について、最初から文字量が多いものもあるが、どのように認識しているのか。
- ・ノート形式以外の分冊がある教科書について、連動が見えにくいのが、使用にあたって留意する点はいかがか。
- ・教科書と視聴覚教材との関連はいかがか。
- ・教科書を通じて児童と保護者が道徳的価値等について話し合うことが大切であるが、各社の工夫はいかがか。
- ・児童と保護者の家庭での対話について、どのようなあり方を想定しているのか。

- ・各教科書について、使いにくい点などもしっかり明示すべきである。
- ・教員が使いやすいという観点が必要である。
- ・ユニバーサルデザインの観点も大切である。
- ・別冊ノートについて、書くことが苦手な児童への配慮から、書きやすく、また、消しやすい素材であるかどうかとも考慮してほしい。
- ・母子家庭や児童養護施設の児童は、「おとうさん、おかあさん」との文章に感情移入しにくいという懸念もあるのではないか。
- ・教科書を家庭に持ち帰れば事前に読んでくる児童もあり、発問が書かれていればその想定を行う児童もいると考えられるが、授業のやりづらさはないのか。

第3回「京都市小学校教科書選定委員会」会議概要

① 日時

平成29年7月10日（月）18時30分から20時10分まで

② 会場

京都市総合教育センター 1階 第2研修室

③ 出席者

選定委員学識者及び保護者代表6名の委員を含め32名

④ 議事

担当指導主事から答申案についての説明を行った後、学識者及び保護者の委員からの意見を踏まえ、協議した。

<主な意見>

- ・意見書や要望書についてどのように対応しているのか。
- ・教科書にめあてや発問等が提示されている方が、多くの教員にとって使いやすいと思う。
- ・児童が授業を振り返る際にノートは有効であり、評価の視点からもノートがある方が望ましいと思う。
- ・サイズの大きい教科書は低学年の子どもには使いづらいと思う。
- ・教科書にめあてや発問等が提示されている方が、児童が考えるきっかけとなり、よいと思う。
- ・児童が教科書を使ってどう学ぶかがポイントである。教科書にめあてや発問等が提示されていれば、家庭で授業を振り返る際に使いやすく、また、保護者と授業について話し合う際にも有効である。
- ・日本文教出版のノートは、低学年のものは記入欄が1マスごとに区切られており、紙質も書きやすく、児童の発達段階に配慮していると思う。
- ・日本文教出版の教科書は、ノートに「友達の考えを記入する欄」が設けられており、よく工夫されていると思った。

6. 調査研究の記録

① 東京書籍「新しい道徳」

読み物教材と学習活動ページ(出会う・ふれ合う/つながる・広がる)で構成されるとともに、教材本編に加え、適宜、導入教材と付録が用意されている。また、各学年で特に重要と考えられる内容項目について、複数の教材を配置するとともに、各教材の内容項目をわかりやすい言葉で示し、振り返りの発問や中心発問が掲載されるなど、教材を適して考えた道徳的価値を、より深めるための学習活動に取り組みやすい。

2年生以上の巻頭には「道徳の学習を進めるために」のページが設けられ「気づく」「考える・話しあう」「振り返る・見つめる」「生かす」の4つのステップを明示することで、学習の流れを掴みやすく、主体的・対話的な学習が促されている。また、教材のはじめに考えるポイントを示し焦点化を図るとともに「話し合いのやくそく」と題して、話し合い活動の手立てを各学年でまとめていることに加え、適宜「問題を見つけて考える」と題した特設ページを設け、話し合い活動や役割演技を促すなど、問題解決的な学習や体験的な学習に対応しているが、問題解決的な学習につながる教材が、各学年で1～2程度であり、やや少ない。

特集ページ「いじめのない世界へ」や、家庭で考えられる情報モラルに関する補助教材を取り上げるなど、コラムとも関連させながら、現代的な教育課題について多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。また、巻末の付録を活用して、他教科や教育課題等と関連付けた効果的な学習が進められるよう配慮されるとともに、6年生に将来の夢を語ろう「働くことの大切さ」としたページを設け、中学校でのキャリア教育につなげている。一部、縦書きと横書きが併用されており、読みづらい箇所がある。

「選定の視点」の評価結果: ◎0 ○30 △2

② 学校図書「かがやけみらい小学校道徳 読みもの」「かがやけみらい小学校道徳 活動」

教科書本冊「読みもの」と別冊付録「活動」の2部構成で、教科書本冊は、読み物教材の心情理解の学習が中心となっており、各教材に、タイトル、4つの視点、内容項目、主題を掲載することで、主体的な学習に取り組みやすいよう工夫されている。ただし、発問と本時のめあては掲載されておらず、発問を掲載しないことは、発問に捉われることなく、児童が自分の感性で読み物の世界に入りやすくするための工夫と考えられ

るが、本時の学習目標であるめあてを掲載しないことで、児童が学習の見通しを持ちにくくなっている。

別冊付録「活動」では「かんがえよう」「みつめよう」「はなしあおう」「やってみよう」や「アクティブ」と題した活動マークが付され、学習活動のポイント等が明示されるとともに、主体的、対話的な学習、問題解決的な学習等が促されている。ただし、別冊付録「活動」は内容項目ごとに構成され、本冊と順番が異なっており、その日に学習しない教材の内容が同じページに掲載されるなど使いにくく、また、児童が書く欄もほとんど設定されていない。

教材以外のコラムが充実しており、重点項目や現代的な教育課題に対応している。特に、「生命の尊重」「スポーツ(オリンピック・パラリンピック)」に関連したコラムは全学年で配置されている。また、別冊付録「活動」に他教科・領域との関連性を示すページとともに、「保護者の方へ」と題したページを設け、家庭との連携が図られている。

「選定の視点」の評価結果: ◎0 ○29 △3

③ 教育出版「小学道徳 はばたこう明日へ」

各教材に、主題と学習の導入文がわかりやすく掲載されるとともに、内容項目ごとに導入(主題への誘い)が設定されるなど、教材を読む前に学習する内容が掴みやすく、授業へのスムーズな導入が図られている。また、授業の流れを想定した「学びの手引き」が教材ごとに設けられ、中心発問や基本発問が設定されるなど、授業が展開しやすい構成で優れている。

役割演技や話し合い活動等を促す「ジャンプ」コーナーを適宜配置することによって、道徳的価値の理解を深めるとともに、各所に「アクティビティ」「モラルスキルトレーニング」と題したページを配置するなど、教科書全体を通して、児童が主体的・対話的に、問題解決的な学習や体験的な学習に取り組めるよう、よく工夫されている。

年度当初に、「道徳の学習が始まるよ」と題したオリエンテーションページを設け、自分の短所や長所など現在の自分と、将来の夢やなりたい自分など1年間の目標を書き込み、巻末には「1年間の道徳の学習を振り返ろう」と題したページを設けることで、児童の心の成長を振り返り、次学年への学習につなげるよう工夫されている。また、6年生の最後に、「1年間で自分の心はどのように成長しましたか」と問い、その上に立って、「中学生になって頑張りたいことはなんですか」として、中学校に向けての目標を考えさせるよう工夫

されている。いじめや情報モラル等の現代的な教育課題も適切に取り扱われている。特に、内容項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の教材が豊富であるとともに、巻末の補充資料にも伝統と文化に関する教材を複数用意するなど、地域の伝統と文化に関連し、地域のために尽くした人々や各分野で活躍した人物を多く取り上げることで、児童がその人物から学び、我が国の伝統と文化に親しみ、地域に愛着が持てるよう工夫されている。

各学年の巻末には、保護者記入欄も設けられ、家庭との連携も図られている。

「選定の視点」の評価結果: ◎2 ○30 △0

④ 光村図書「道徳 きみがいちばん ひかるとき」

教科書冒頭に「話し合う・演じる・読む・書く」の4つの活動をイラストで示す「道徳の時間は」のページを設けるとともに、各教材には、・主題・本時のめあて・発問等が提示されている。また、冒頭でキャラクターが児童へわかりやすく問いかける形で、学習へのスムーズな導入が図られるなど、1時間の授業の流れが掴みやすい構成で優れている。さらに、各教材末の「学習のてびき」に「考えよう」として、話し合い活動を意図した発問を用意するなど、・主体的に考え、話し合う活動が促されている。

1年間を4つの「学習のまとめ」に分け、1年間の児童の成長過程を踏まえ、期間ごとに重点教材が配置されるとともに、「学習のまとめ」の区切り目に「学びの記録」を設けることで、毎時間の学びの記録と合わせ、児童の振り返りや自己評価を通じた成長が見取りやすいよう、よく工夫されている。ただし、4つの「学習のまとめ」の区切りが、①4月から5月 ②6月から9月 ③10月から12月 ④1月から3月とされている意図が不明で、各校の年間指導計画と整合性が図りにくい。

各教材に、「考えよう」と題して、言語活動や問題解決的な学習が位置付けられるとともに、「つなげよう」と題して、他教科との関連付けや日常生活への意識付けなど、計画的・発展的な学習の展開が促されている。また、教材と関連するコラムを組み合わせた「ユニット」を、学年に応じて1年間に5箇所程度設定するとともに、いじめや情報モラル等の現代的な教育課題についても、「ユニット」構成で取り扱うことで、考えを深め、多面的・多角的に考えることができるよう、よく工夫されている。

全学年を通して「生命の尊重」に関する教材を複数

掲載するとともに、様々な地域題材や伝統文化を取り扱った教材が、学年の発達段階に即して、学年に記置されており、写真等の資料も豊富で、児童が我が国の伝統と文化に親しみ、地域に愛着がもてるよう工夫されている。

適宜、「つなげよう」と題して、キャラクターの吹き出しで、学習した道徳的価値を他教科や日常生活につながる内容が提案されている。また、巻末の一覧表には、内容項目、主題名、教材名に加え、他教科・領域や現代的な教育課題との関わりが、児童や保護者にもわかりやすくまとめられており、他の教科書には見られない工夫である。

一部、挿絵と挿絵、挿絵と文字が重なる部分がある。

「選定の視点J」の評価結果: ◎5 ○25 △2

⑤ 日本文教出版「小学道徳生きる力」 「道徳ノート」

教科書本冊に加え、別冊として「道徳ノート」が付いており、本冊と別冊を同じレイアウトにするなど工夫されている。

各教材に、主題名や導入発問例に加え、主な登場人物が図示されるとともに、教材の内容を要約したわかりやすい一文が掲載されるなど、教材の内容が捉えやすく授業が展開しやすい構成である。また「考えてみよう」と題し、道徳的価値に迫る中心発問が、設定されているとともに、別冊「道徳ノート」に中心発問に対する自分の考えを書く欄、友達の考えを書く欄が設定されるなど、自己をふり返り、考えを深め、広めることができるよう工夫されるなど優れている。

全体を通して、書く活動が充実しているとともに、問題解決的な学習や体験的な学習の手法を用いるのに適した教材には、「学習の手引き」と題して、問題解決のステップ「問題把握」「自力解決」「集団検討」「まとめ」を示すことで、学習の見通しを持ちながら、具体的な場面から問題解決的な学習や役割演技等に取り組めるよう工夫されており優れている。また、上述の主な登場人物や教材の内容の要約文の掲載は、児童にとって自我関与しやすい有効な手立てでありさらに、自分の気持ちや考えをその場にふさわしい方法で表現することを旨とする活動の要素も盛り込まれるなど、主体的・対話的な学びに向けて、よく工夫されている。

各教材の「考えてみよう」「見つめよう生かそう」では、教材のねらいや学習を通して考えたことなどが、児童の自発的な発問例として示され、多様な考えが引き出されるよう工夫されている。また、別冊「道徳ノート」に掲載される中心発問や展開後段での発問等が、

教材の発問例と友達の意見を書く欄の双方に関連付けられることで、話し合い活動や交流活動を促し、道徳的価値について多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。

別冊「道徳ノート」に、教師の発問例や児童の自己評価欄等が教材ごとに設けられ、学習のポートフォリオとして児童の成長の記録ともなり、評価に活用できるよう工夫されている。また、本冊巻末の保護者に向けたメッセージに加え、別冊「道徳ノート」にも、1年間の振り返りページに保護者記入欄を設けるなど、家庭との共有についても、よく工夫されている。

いじめや情報モラル等の現代的な教育課題も適切に取り扱われている。また、児童にとって身近に感じられる自然や祭り等の全国各地の魅力的な素材を取り上げるとともに、伝統文化や国際理解についても、学年に応じた多様な教材が配置されている。特に、「学習の手引き」において「問題をつかもう」から「問題について考えよう」「違う問題について話し合おう」「問題を解決するとき大切な考え方について話し合おう」と段階的な活動を通して、ルールや規範意識等について多面的・多角的に考え、それを別冊「道徳ノート」の書く活動につなげるなど工夫されている。

適宜、特設ページ「心のベンチ」が配置され、教材と関連した内容や活動を例示するとともに、他教科・領域等との関連付けも図られるなど、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。

「選定の視点」の評価結果: ◎7 ○25 △0

⑥ 光文書院「小学道徳 ゆたかな心」

各教材に、内容項目に捉われ過ぎないわかりやすい主題や導入の問いが明示されるとともに、学習の手がかりや中心発問等については、教材下段のキャラクターによる問いかけの形式で行われるなど工夫されている。また「導入」「まとめる(終末)」「ひろげる(発展)」が設けられ授業の目的や流れを明確にするとともに、終末と発展で教材と関連する書籍を紹介し、読書活動とつなげるなど、多面的・多角的な学びとなるよう工夫されている。なお、1年生のはじめの時間の教材から文字を多く使用しており、発達段階を踏まえると、学習が難しい面がある。

コラム「みんなでやってみよう」が全学年に配置され、発達段階に応じた様々なグループワークを提示するなど、コミュニケーション力を高め、よりよい人間関係の構築に向けた言語活動や問題解決的な学習等の充実が図られている。

全学年に「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」等の題材が配置されるとともに、特設ページ「みんな仲よし楽しい学校」を全学年に配置し、児童自らがいじめの防止などに主体的に考え、関わる態度を育めるよう工夫されている。

家庭での出来事や地域との交流を描いた題材が多様に取り入れられている。各教材の「広げる」でも、他教科4領域との関連に加え、適宜、家庭や地域の人との関わりを持たせた活動を提示することで、学習したことが児童の日常へつながるよう工夫されている。また、巻末には、自己評価シート「学びの足あと」が用意され、児童が自らの学習状況を確認められるとともに、6年生の「広げる」では、「中学生になるにあたり、あなたが大切にしていきたいことを書きましよう」と発問したり、特設ページ「わたしはどうひろがる」では、様々な職業を紹介したりするなど、中学校でのキャリア教育につながる視点が設けられている。

判型はA4変型版で、低学年児童にとって大きく重みを感じられる。また、同じ教材の中で、縦書きと横書きが併用されたり、文字と挿絵が重なったり、字体やフォントを変えたりするなど、配慮を要する児童にとっては使いづらい。カラーユニバーサルデザインに配慮されているが、その配慮について教科書に記述されていない。

「選定の視点」の評価結果: ◎0 ○28 △4

⑦ 学研教育みらい「みんなの道徳」

各教材に、4つの視点のうち、どの視点に関わる教材なのか明示されるとともに、「考えよう」として、道徳的諸価値に迫るための中心発問が設定されている。あえて主題名を掲載しないことで、主題に捉われることなく自分の感性で学習に入ることができるよう工夫されているが、児童にとって教材の内容を捉えにくい。また、1年生のはじめの時間の教材から支字を多く使用しており、発達段階を踏まえると、学習が難しい面がある。

「学び方のページ」と題し、「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」の4種を提示し、学習したことを自分の生活につなげて考えるよう促すとともに、書く活動や交流活動、役割演技等の言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習を促し、道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。

「いのちの教育」を全学年の最重点テーマに据え、「生命の尊さ」の教材と他の内容項目の教材を関連し

て考えさせるなど、多面的に考える授業が可能な構成にするとともに、「よりよく生きる」をテーマに、先人やスポーツの著名人等を積極的に取り上げ、児童が生きて喜びや目標を持てるようするなど工夫されている。

6年生の「つなげよう」で、地域や社会のためにできることを、児童に考えさせ、実際に活動した後の感想や思いについて書かせるページを設けるなど、地域との連携が図られている。また、巻末には、自己評価シート「心の宝物学びの足あと」が用意され、自らの学習状況を振り返るとともに、適宜、「家の人と一緒に考えましよう」とマークを付し、保護者記入欄が示されるなど、学校での学習を家庭と共有することができるよう工夫されている。

一部、挿絵と文字が重なる部分がある。

「選定の視点J」の評価結果: ◎0 ○28 △4

⑧ 廣済堂あかつき「みんなで考え話し合う小学生の道徳」「自分を見つめ、考える道徳ノート」

教科書本冊に加え、別冊として「道徳ノート」が付いている。本冊と別冊には、関連性を示す情報が少なく、児童にとってわかりにくい面があるが、あえて別冊に教材名を書かないことで、教材内容に捉われない内容項目の深い理解が図られている。

他社に比べ、問題解決的な学習や道徳的行動に関する体験的な学習が設定された教材や、それらの学習につながるよう工夫された教材が最も豊富に設定されている。各教材末に「学習の道すじ」と題して「考えよう話し合おう」を設定し、主題、本時のめあて、問いなどの学びの手がかりを示すとともに、教材の前に本時のキーワードを掲載することで、学習の見通しを持って自ら課題意識等への意欲を高めるなど、主体的・対話的で深い学びに向けた有効な手立てとなっている。また、教材に応じて「学習を広げる」と題し、調べ学習や問題解決的な学習、役割演技等を促すとともに、関連書籍や格言等を紹介するなど、学習の発展的な広がりや深まりを図り、道徳的価値の理解を深め、児童が主体的・多面的に学べるよう工夫されている。

別冊「道徳ノート」では、内容項目を発達段階に応じたわかりやすい表現で示すなど、効果的にねらいに迫り学習内容をわかりやすく振り返れるよう工夫されているとともに、各時間の振り返り欄や内容項目ごとの振り返り欄に加え、話し合い活動の記録ページを設け、話し合い活動を積極的に行うよう促している。また、展開後段の発問や自己評価欄(自由記述)も掲載されており、絵で表したり色を塗ったりするなど、自己評

価値は学習のポートフォリオ形式として評価に活用できるように工夫されており、優れている。

本冊の裏表紙に、保護者に向けたメッセージを掲載するとともに、別冊「道徳ノート」の巻末には、折込資料「心のしおり」が用意され、児童の書き込みを教師や保護者がチェックする欄が設けられるなど、学校での学習を家庭と共有することができるよう工夫されており、優れている。

いじめの問題と関わりの深い内容項目で扱う教材はもとより「友情・信頼」や「親切・思いやり」など、様々な道徳的価値の理解を深めることを通して人権尊重やいじめ防止につながるよう工夫されるとともに、命の教育の一環として、夏休み前に「自らの命を守ること」の大切さを学べるよう特設ページが設けられるなど工夫されている。また、情報モラルについては低学年では情報モラルの素地となる学習に留まり、関連教材は取り上げられていないが、他の学年では、インターネットやSNS等を中心に取り上げており6年生では特設ページを設け、著作権をわかりやすく解説するなど工夫されている。

「選定の視点」の評価結果: ◎5 ○27 △0

全国の道徳検定教科書採用状況

小学校 867万冊

1 東京書籍	21.3%
1 日本文教出版	21.3%
3 光村図書	17.1%
4 学研教育みらい	14.8%
5 教育出版	8.6%
6 光文書院	8.6%
7 学校図書	5.7%
8 廣済堂あかつき	2.9%

V 今後の課題

1. 教科書展示会の意見書にも複数の記載があるように、検定教科書の教材の多くが、文部科学省の発行している「私たちの道徳」や道徳の副読本に掲載されている読物教材である。本稿で取り上げた「手品師」も、文部省の「小学校道徳の指導資料とその利用1」で扱われ、多くの副読本に長く掲載されている教材である。学校現場では、「子どもの実態には合わなくなっている」や、「内容項目とのズレがある」などの反対意見もある教材だが、全ての検定教科書に掲載が続けられている。

これは、新設した検定基準で、内容の取扱いに示す題材(生命の尊厳、社会参画(中学校)、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等現代的な課題)は全て教材として取り上げられることを求めていることにも関係があると考えられる。内容項目によっては、新しい教材を作りにくいものがあり、教科書を作成する側としては、文部省の発行している資料に記載されている教材を使い続ける傾向が続いている。

道徳の教科化により「多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善をすること」が求められていることも踏まえ、新しい教材を開発していくことが必要である。

2. 教科書選定委員会の議論の中で、「教科書にめあてや発問等が提示されていれば、家庭で授業を振り返る際に使いやすく、また、保護者と授業について話し合う際にも有効である」という意見と「教科書を家庭に持ち帰れば事前に読んでくる児童もおり、発問が書かれていればその想定を行う児童もいると考えられるが、授業のやりづらさはないのか」という意見も見られる。

すべての教材に発問が付けられていることにより、子どもたちの自主的な学習が促されるという意見と、道徳の授業の中で、教科書の使い方を制限してしまうのではないかという意見の対立が、教科書を採択する側にある。

「児童が教科書を使ってどう学ぶか」が、道徳の教科化の重要なポイントであり、検定教科書における発問の取り扱いについては、多くの授業実践の中で研究を進めていく必要がある。

3. 教科書展示会の意見書の中に、「道徳の教科書にノートが付属しているのが何社もありましたが、ノートに書くことに(文字をかく、作文することに)時間がかかる児童にとっては負担が大きいです。他の人と意見をかわし自分の変化をうながすことと文字にしてのこすことは別で、ノートにかかせるのは評価するためかと思えます」という記述がある。教科書の調査記録の中では、「別冊「道徳ノート」に、教師の発問例や児童の自己評価欄が教材ごとに設けられ、学習のポートフォリオとして児童の成長の記録ともなり、評価に活用できるように工夫されている、また、本冊巻末の保護者に向けたメッセージに加え、別冊「道徳ノート」にも、1年間の振り返りページに保護者記入欄を設けるなど、家庭との共有についても、よく工夫されているという」記述がみられる。

この「道徳ノート」については、保護者からは、「評価材料として利用されることへの不安」が、道徳の専門家からは、「児童の学びの振り返りとして積極的に活用すべき」と意見が分かれている。全国の道徳検定教科書採用

状況からは、別冊「道徳ノート」を付けている教科書と、別冊「道徳ノート」を付けていない教科書に二分されている状況が読み取れる。

道徳の教科化では、評価の方法や在り方が課題として取り上げられている。道徳科における評価は、こども自身が自分のよさに気づき、そのよさを伸ばしていくためにあることを踏まえて、検定教科書と「道徳ノート」の在り方を検討していく必要がある。

4. 全国の道徳検定教科書採用状況の上位2社の共通点として、教材配列のユニット化(単元化)があげられる。今回の道徳の教科化のきっかけになった「いじめ問題」に対応するため、「いじめ防止」に関する教材を組み合わせることでユニット化することから導入されたものであるが、一部には、異なった内容項目を組み合わせたユニット化も試みられている。

道徳の専門家のあいだでは、道徳の教材をユニット化することについて反対する意見があるが、文部科学省の教科書検定基準に「図書の内容に応じ、道徳科以外の教科に関して専門的知見を有する者(道徳科以外の教科を担当する部会の委員・臨時委員・専門委員その他の学識経験者等)の協力を得ることができるようにすること」が追加されたことにより、道徳科以外の教科に関する教員の意見の中に、教材のユニット化に賛成するものが見られるようになってきている。

敦賀市教育委員会が、敦賀市内の小学校の道徳に「法教育」を導入する段階で、弁護士や検察官などの外部人材を活用するため、教材のユニット化を試行した実践例がある。また、大野市陽明中学校では、道徳の時間に地域人材を活用した授業実践を提案するなど、道徳の教科化に向けた新しい試みが福井県内でも行われている。

このような、道徳科の授業が大きく変化していく中で、道徳の検定教科書の教材配列やユニット化が、どうあるべきかを検討していく必要がある。

[参考文献]

- 文部科学省(2018)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科 道徳編」廣濟堂あつき株式会社
教科用図書検定審議会(2015)「特別の教科道徳の教科書検定について」(報告)文部科学省
京都市教育委員会事務局(2017)「京都市小学校教科書選定委員会議事録」京都市教育委員会
酒井郷平・田中奈津子・中村美智太郎(2017)「道徳教育の史的変遷と現代的課題」静岡大学教育学部研究報告
大野市陽明中学校(2019)「福井県中学校道徳教育研究大会研究収録」大野市教育委員会

福井県法教育推進協議会(2016)「法教育のフロンティア」
日本文教出版